

日本語授受動詞構文の非対称性

— 非意志的事象の構文化を中心に —

施 葉 飛

1. はじめに

現代日本語(共通語)の授受構文⁽¹⁾には以下のように、2つの特徴が挙げられる。中国語、英語などの言語には、見られない現象である。

- ① 授与(GIVE)動詞の語彙的分化：(テ)ヤルと(テ)クレルのように、話者側から見る方向性(話者側に向かうか、非話者側に向かうか)の違いによって、形式が分化される⁽²⁾。(【表1】)

【表1】：授与動詞の語彙的分化

	話者側に向かう	非話者側に向かう	語彙的分化
日本語	(テ)ヤル	(テ)クレル	分化
中国語	给 ⁽³⁾	给	未分化
英語	GIVE	GIVE	未分化

- ② 構文化対象の範囲が広い：物理的に存在する物に限らず、動作や恩恵などの抽象的なものの授受を構文化することが可能である。

次の例(1)のように、現代日本語は「雨が止む」というような非意志的事象まで、授受構文化することができる。

- (1). 雨が止んでくれたので、自転車で出発。

(20)

同一事象を中国語や英語で授受構文化することはできない。

しかし、日本語のみが授受構文化可能な抽象的な事象——非意志的事象に関しても、方向性の違いによって差が見られる。それが(2)～(5)である。「*」は非文であることを表す。

- (2). 長い夜がとうとう、終わってくれた。
- (3). 長い夜が、早く終わってもらいたい。
(cf. *長い夜が、早く終わってもらった。)

- (4). *長い夜が、とうとう、終わってやった。
- (5). *長い夜が、とうとう、終わってあげた。

(2)(3)のような「求心型」、つまり、話者側に向かうテクレル、テモラウは構文化可能であるが、(4)(5)のような「遠心型」、つまり、話者側から非話者側に向かうテヤル、テアゲル構文は許容され難い。言い換えると、「長い夜が終わる」といったような非意志的な出来事に対して、話者側に向かう求心型授受動詞の方が非話者側に向かう遠心型授受動詞より構文化しやすいという非対称性が見受けられる。本研究では、非意志的事象授受構文化の非対称性を中心に論じる。

2. 周辺的な授受構文—非意志的授受構文

本節では、まず「授受対象の抽象性」、「前項動詞の意志性」の基準によって、授受構文の構文パターンの分類を行う。現代日本語の授受補助動詞は話者を原点として、「求心型(テクレル、テモラウ)」と「遠心型(アゲル、テヤル)」の対立が存在する。求心型とは話者から内への方向性を持つ動作であり、遠心型とは話者から外への方向性を持つ動作である。両種は補助動詞として、物理的な空間移動(A類)以外、行為などの抽象的なものの移動(B類)を表すことも可能である。それぞれ(A1)～(A4)は物理的空間の移動を表し、(B1)～(B4)は社会的な空間の移動を表す。

A類：物理的関与(物の移動+恩恵行為の移動)

- (A1). テクレル：友人がプレゼントを贈ってくれた。(物+行為 求心)
- (A2). テモラウ：友人からプレゼントを贈ってもらった。
(物+行為 求心)
- (A3). テヤル：友人にプレゼントを贈ってやった。(物+行為 遠心)

(A4). テアゲル：友人にプレゼントを贈ってあげた。(物+行為 遠心)

B類：社会的関与(恩恵行為の移動)

(B1). テクレル：友人が娘を褒めてくれた。(行為 求心)

(B2). テモラウ：友人から娘を褒めてもらった。(行為 求心)

(B3). テヤル：友人を褒めてやった。(行為 遠心)

(B4). テアゲル：友人を褒めてあげた。(行為 遠心)

A類の物理的関与においてはいずれも移動対象「プレゼント」の物理的空間移動が確認できる。(A1)(A2)は話者側「私」を指向する求心的用法であり、(A3)(A4)は非話者側「友人」を指向する遠心的用法である。B類の社会的関与(B1)~(B4)は動作者による恩恵行為の移動が認められる。(B1)(B2)は話者側「私」を指向する求心的用法であり、(B3)(B4)は非話者側「友人」を指向する遠心的用法である。A類、B類はいずれも動作者が意志を持って行った行動であり、第三者からでも客観的な事象の移動として捉えることが可能であるが、山田(2000:100)は受益の方向性を論じるにあたって、(6a)と(7a)の用例を参照にして、二つの構造的な分類を導入した。

- (6)a. 田中は私に本を売ってくれた。 (7)a. 田中は私のために走ってくれた。
 b. 田中は私に本を売った。 b. 田中は走った。

A類に相当する(6a)は、事態に含まれる動詞の項である「私」が受益者となっており、「売る」という行為の方向性とテクレルの表す恩恵の方向性とが一致する。これに対して、B類に相当する(7a)は、「田中が走る」という行為自体はもう一人の参与者である「私」から独立して行われており、「田中」と「私」の間には何ら作用の方向性は存在しない。山田(2000)は、(6a)のような事態の項が受益者となる場合を直接テクレル受益文、(7a)のような事態に含まれない参与者が受益者となる文を間接テクレル受益文と呼ぶ。

しかし、A類、B類以外にも、由井(1997)、澤田(2009)などから指摘されているように、一部の授受動詞には心理的関与を表す用法も存在する。この種の用法は、利益を表す「のために」を補っても成立しない。(C1)と(C2)を見てみよう。

C類：心理的関与(非意志的動詞事象の主観的関与)

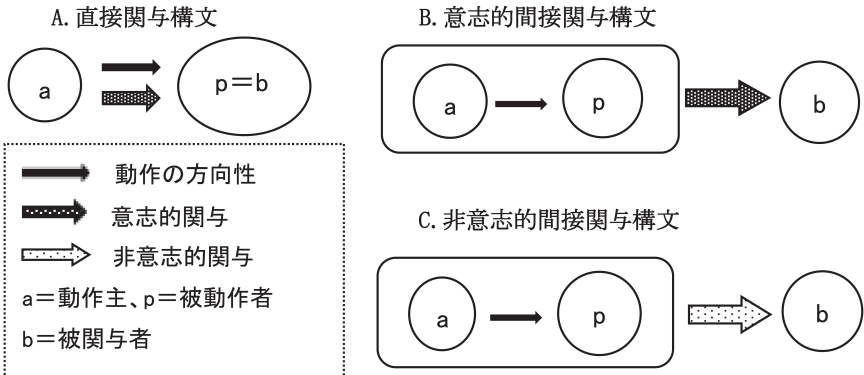
(C1). テクレル：根付くかどうか心配していたけどこんなに綺麗に咲いてくれました。(Yahoo! ⁽⁴⁾ブログ)(求心)

(22)

(C2). テモラウ：梅雨時期でかなり泥汚れが目立ちますが、早く梅雨も明けてもらいたいものです。(Yahoo! ブログ)(求心)

C類は、擬人用法でない限り、「花が私のために咲いた」、「梅雨が私のために明けた」の解釈が成り立たない。A、B類と違って、物や恩恵行為などの移動意味が背景化され、客観的な事象から話し手(話者)が関与された(ここでは、主に受益)という心理的な影響を表す授受動詞用法であり、非意志的動詞事象に後続するのが特徴である。

本研究では山田(2000)、(2004)の構造的分類を踏まえて、授受構文を「関与構文」の枠組みに入れる。前接する述語動詞の意志性の違いによって、授受構文を3分類(A、B、C)した。それが【図1】である。



【図1】：関与構文

授受構文のみならず、由井(1996)、(1997)、高見・久野(2002)などの一部の研究では、現代日本語の移動構文(テクル、テイク)や受動構文も「関与構文」として、非意志的動詞構文が発達していると指摘されている。

本稿では、最も抽象度や主観性の高いC類構文に注目して、授受動詞の持つ方向性の違いによる構文化の差異を検証する。

3 非意志的授受構文の非対称性

最初に非意志的動詞について説明する。動詞の意志性に関して、仁田(1988)は以下のように定義している。

動詞が命令や禁止のモダリティを取りうるのか否かには、その動詞の有している〈自己制御性〉といった意味的特性が関わっている。自己制御性とは、動きの発生・過程・達成を、動きの主体が自分の意志をもって制御できるといった性質である。自己制御性を持った動詞が、いわゆる意志動詞であり、自己制御性を持たない動詞が、いわゆる無意志動詞である。

本稿では概ね仁田(1988)に従って、動作主の意志によって制御できない動作を非意志的動詞(=無意志動詞)と認定する。なお、非意志的動詞の選定方法に関しては、便宜上、意志的用法が想定されやすいもの(i、ii)を排除⁽⁵⁾して、意志的用法を想定しがたい典型的な非意志的動詞(iii)のみを対象にした。

- i. +意志性(送る、褒める、教える、別れる、離れるなど)
- ii. ±意志性(知る、分かる、立つ、喜ぶ、暴れる、怒鳴る、負ける、好くなど)
- iii. -意志性(起こる、強まる、晴れる、咲く、落ちる、遅れるなど)

現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)BCCWJ-NTを用いて、授受動詞の前項動詞⁽⁶⁾を調査した。対象の授受動詞は「テクレル」「テモラウ」「テヤル」「テアゲル」である。その結果、出現回数 ≥ 1 の非意志的動詞109語(代表的な動詞と語彙的近似性のある一部複合動詞を除く)を見出すことができた。各授受動詞の非意志的動詞接続の用例数を【表2】にまとめた。

【表2】：授受補助動詞の非意志的動詞前項

方向性	授受動詞	異なり語数	のべ語数
求心型	テクレル	106 語	517 例
	テモラウ	28 語	67 例
遠心型	テヤル	10 語	14 例
	テアゲル	2 語	3 例

【表2】を見ると、テクレル文が106語(517例)と最も多く、テモラウ文が次いで28語(67例)、テヤルとテアゲルがそれぞれ10語(14例)、2語(3例)であったことが分かる。この調査から少なくとも次の二つの結果が示される。

第1点目は、非意志的動詞接続は求心型授受動詞(テクレル、テモラウ)に多く観察されたが、遠心型授受動詞(テヤル、テアゲル)では僅少である。さらに、

(24)

テヤルとテアゲルの用例を詳しく観察すれば、(8)～(11)のような特殊用法が含まれており、実質的には0例に近い。例えば、以下の遠心型用例(8～11)の「生まれる」、「売れる」、「消える」は特殊な場面において、非意志的動詞の意志的用法となる。(8)、(10)、(11)は非意志的動作を有意志化する表現であり、(9)は、受影者が存在しないため、授受関係が想定されない表現である。

非意志的動詞+テヤル

- (8). もしかしたら、この子の抵抗だったのかもしれないなあと思ったんです。絶対に生まれてやるっていうような。そう思うと、もう産むしかないような気になって…

(『今夜誰のとなりで眠る』 唯川恵(著))

- (9). その際、何故か衣装はタキシードを着用するが多い。あまり「売れてやる!」というような意欲が感じられない二人組。

(Yahoo! ブログ)

非意志的動詞+テアゲル

- (10). これ以上くだらない言い合いをしなくてすむよう、君の前からきれいさっぱり消えてあげるよ。すべてがいいタイミングだ」

(『ロシア紅茶の謎』 有栖川有栖(著))

- (11). 先進国は子供を買うのだろうか。子供は金を貰って、生まれてあげる。これが本当の資本主義だ。

(Yahoo! ブログ)

第2点目は、求心型授受動詞内部にあるテクレルとテモラウの差異である。テモラウに比べてみれば、テクレルの動詞数(106対28)や用例数(517対67)が圧倒的に多いという事実が窺える。

上記二つの結果を踏まえて、次のような3つの問題点を提示したい。

問題1-用例(A1)～(A4)、(B1)～(B4)からも示されるように、A、B類の段階では求心型授受動詞用法があれば、ほぼ対応する遠心型授受動詞用法も存在する。しかし、C類においては求心型授受動詞用法に偏っている。このような非対称性の背景は、管見の限り、明らかにされていない。

問題2-求心型授受動詞テクレル、テモラウが非意志的な動詞事象を構文化することができる事実は、受益意味の発生と如何なる関係性を持つのかを論じる必要がある。

問題3-求心型授受動詞内部(テクレルとテモラウ)の差異の背景、言い換えれば、「テモラウ用法が抑制される背景」の究明も非意志的動詞の授受構文化の連続性を考えるにあたって、欠かせない重要な課題である。

4. 考 察

4.1. 非意志的動詞の授受構文

非意志的動詞の授受動詞接続は、周辺的な構文である性質上、これまで多く論じられていない。また、「共起性に偏りがある」という現象に関する論議が行われていても、決して、共起性の偏りにある背景が十全に説明されているとは言えない。

授受動詞全般に関する論議ではないが、影山(1996:32)は「非能格性制約」を提唱し、「～にVしてもらう」構文は「非能格動詞と他動詞のみ現われ、非対格動詞は現われない。」と一般化した。

これに対して、高見・久野(2002:303)は上記の制約に反する用例を多数列挙して、非対格動詞であっても「～にVしてもらう」構文に用いられる場合があると批判した。しかし、「～にVしてもらう」や「～がVしてくれる」構文に関して、高見・久野(2002)は「話せる」、「できる」、「聞こえる」、「見える」などの[恒常的状态]を表す動詞とは共起できないと述べている。

(12). *スミスさんが、日本語が上手であってくれて、助かった。

(13). *太郎が、中華料理が好きであってくれて、よかった。

(14). ??このナイフはよく切れてくれて、助かる。

(15). *家の近くに湖があってくれて、毎日散歩を楽しんでいる。

(以上、高見・久野 2002:300 より)

(12)～(15)の作例に関しては、筆者からすれば、すべて容認度の高い文であるが、両氏は、「授与動詞「くれる」は、「人がこちらに物を与える」という行為、変化を表すために、その補助動詞「～てくれる」も「～て」の埋め込み文の部分に、行為、変化を表す事象を要求する」として、「主語指示物が何も行わず、何の変化もしないで恒常的な状態にあることを示す事象は、この構文に現われない」と主張する。さらに、この制限に関して、高見・久野(2002:311)は「「～にVしてもらう」構文にもあてはまる」と一般化した。それが(16)～(19)である。

(26)

- (16). *スミスさんに日本語ができてもらって、助かった。
(17). *太郎に中華料理が好きであってもらって、よかった。
(18). *あなたに2.0の文字が見えてもらって、助かった。
(19). *あなたにお金がたくさんあってもらって、嬉しい。

(以上、高見・久野2002:311より)

上記の記述に対して、澤田(2014)は、下記の(20)、(21)のように、「両授与動詞では状態動詞との共起性に差が見られる。」と指摘している。

- (20). OK/?家のすぐ傍にコンビニがあってくれる(のが助かる⁽⁷⁾)。
(21). *家のすぐ傍にコンビニがあってやる。

テクレルとテヤルの差異について、澤田(2014:44)は、クレルの特殊性(「くれる」は動作主を含む行為動詞でありながらも、「動作主の授益」ではなく、「話し手の授益」に焦点を当てた動詞である)が関係していると考え、

「くれる」は、動作主による授益に焦点を当てた授与動詞ではないために、動作主の存在を含意しない非行為的事象までも補文に取るB3型(筆者注:本稿のC類用法に相当する)にまで拡張し得たのだといえる。一方、「やる」は、動作主による授益に焦点を当てた動詞であるために、「てやる」へと文法化を遂げた後も、補部の事象は、恩恵を施す意図を有する動作主の存在を含意する行為的事象に制限され、B3型までは拡張し得なかった。

と、動作主による授益に焦点を当てるか否かの違いに由来すると説明している。

高見・久野(2002)の提起する「状態動詞との共起性制限」に関しては、本稿の調査によると、明らかに恒常的な状態に該当する事象も求心型授受動詞テクレルやテモラウと共起するため、非意志的動詞授受構文の成立に関わる本質的な問題ではないと判断する。用例(22)~(24)を参照されたい。特に、(23)(24)は「ずっと」、「末長く」のような副詞と共起するので、一時的な状態ではないことが分かる。

- (22). ナショナリズム丸出しだったのは韓国チームだったでしょう? それとも、あれ? 俺の記憶違いですかね? 日本を背負って戦い、ヒーローであってくれた人へのコメントがこんなとは……あなたには本質が見えないようですね。残念だ。

(Twitter 2019. 3. 22)

- (23). 付き合った当初はこんなに長く続くなんで微塵も思ってなかった。いまだに大好きで、そして大好きでい続けてもらうための努力をしています。駆け引きはおばあちゃんになっても続けます。ずっと好きでいてもらいたい⁽⁸⁾から。

(Twitter 2019. 12. 18)

- (24). みんなには末永く好きでいてもらいたいなあって思う。飽き性な人もいると思うけど、ずっとみていたいなあって思ってもらえるように頑張るンゴ。

(Twitter 2019. 4. 14)

また、澤田(2014)の提起する「両授与動詞では状態動詞との共起性に差が見られる」という点については、前述の調査結果(テクレル 106 語、テヤル 10 語)からも検証されているため、本稿はこれに従う。しかし、両授与動詞の差異の原因を動作主による授益に焦点を当てるか否かの違いに帰結することには疑問がある。

澤田(2014)の説明をまとめると、テクレル、テヤルにおける状態動詞との共起性の差異は、両授受動詞自身が「恩恵を施す意図を有する動作主」の存在を要求するか否かという構文的な制限に由来するという。つまり、語彙意味上、ヤル動詞の焦点の所在は動作主による授益であるため、意志的な動作主を要求する。一方、クレル動詞の焦点の所在は動作主による授益ではなく、話し手の受益にあるため、動作主が背景化されていても文として成り立つということである。

仮にそうであれば、モラウ動詞の焦点の所在も動作主による授益ではないため、意志的動詞主体を要求せずに、クレル動詞と同様のレベルで非意志的動詞構文を産出するはずであるが、事実、本稿の調査からも示されたように、両者には大きな違いが存在する(動詞数 106 対 28、用例数 517 対 67)。澤田(2014)の議論は、この点に関して妥当性を欠く。

本稿では、澤田(2014)と異なり、構文レベルでは両授受動詞ともに非意志的動詞が表す事象との接続が認められるが、遠心型非意志的授受構文の産出が困難であるのは、語用論的な要因によって抑制されたからであると考えられる。つまり、非意志的な事象(=非関与的な事象)を主観的に把握することが出来るのは、話者側のみという制限が存在することが両授受動詞の差異の要因である。

4.2. 求心性について

3 節で提示した 3 つの問題のうち、まず問題 1 について考察する。

問題1-授受動詞の非意志的動詞が求心型に偏る現象に関して、本稿では語用論的な要因によって生じたと考える。

話し手側と非話し手側の区分化(形式上は、授与動詞「やる」、「くれる」; 移動動詞「来る」、「行く」の分化のようにも反映される)により、話し手側を中心とする現代日本語は、話し手から独立した動詞事象まで埋め込み文にして、「内側への間接的関与」を主観的に把握することが可能になった⁽⁹⁾。その結果、求心型構文は話者側への関与を表わすため、問題なく成立する。一方、非話者側への関与を表わす遠心型の構文は、具体物や第三者から見ても関与であると認められるようなものでない限り、外側(非話し手側)の心情を話し手が主観的に把握することは原則不可能であるため、会話の場では排除される。よって、遠心型は上述したA、B類用法に止まり、C類までに発達していない。このような原理は感情や心理を表す内的状態述語と類似している。

(25). 長い夜がとうとう、終わってくれた。

(25)'. *長い夜が、とうとう、終わってやった。

(26). 私は寂しい。

(26)'. *太郎は寂しい。

上記のように、「長い夜が終わった」という独立した事象(「夜」という主体が会話参加者の誰かに利益を与えるために「終わる」という解釈は擬人法でない限り、成り立たない。)について、(25)の場合はこの出来事の結果から、話し手側が何らかの影響を受けたという心情を語るため、(26)の内的状態述語のように、客観的な証拠性を要求せずに、本人の基準点から自由に語られる。これに対して、(26)'の「長い夜が終わった」という出来事を非話し手側何らかの影響をもたらしたとする表現は、会話の場において、非話し手側の心内領域を侵害する行為と判断されるため、(26)'の文と同じように適格性が落ちる。

では、問題2として挙げた、求心型授受動詞が非意志的な動詞事象を構文化することができる事実は、受益意味の発生とどのような関係があるのか。まず、そもそも現代日本語はなぜこのような表現形式を用いるのかとの疑問を考えておきたい。調査から得られた用例(27)~(29)と授受動詞を省略した対照例(27)'~(29)'を比較する。

(27). 彼女と同じ思いの医者が増えてくれることを望みます。

(27)'. 彼女と同じ思いの医者が増えることを望みます。

(28). この身体の脂肪が気温で溶けてくれればいいのに、とか思います(笑)

(28)'. この身体の脂肪が気温で溶ければいいのに、とか思います(笑)

(29). ながないながい夜が、とうとう、終わってくれたんだわ。よかったです。

(29)'. ながないながい夜が、とうとう、終わったんだわ。よかったです。

非意志的動詞テクレル構文(27)～(29)は文中の補助動詞クレルを脱落させても、(27)'～(29)'のように、ほぼ原文と同じ意味を表現することができる。つまり、「事象の陳述」+「話者の気持ち」という複文で表しても十分である。⁽¹¹⁾ それにもかかわらず、現代日本語では複文構造を使わずに、事象と参与者の関係を表わす「関与構文」を多用している(他にも、受け身構文や移動構文などから観察される)。これは、日本語の文脈構築の特殊性から生み出された表現であると考えられる。

一度立てた主語をできるだけ途中で変更しない「視点固定型」⁽¹²⁾の日本語は、上記のような関与構文を使用すれば、主語を頻繁に変更せずに、視点を維持することが出来る。そうでない場合は、「脂肪が溶けた、(私は)嬉しかった」のように、主語を一々シフトしなければならない。関与構文は主に、助動詞や補助動詞のような機能語に構成され、一定の条件(話し手側への関与を表わす場合)⁽¹³⁾を満たせば、会話の参与者から独立した一つの出来事を参与者に関係づけるという機能が付与され、「間接関与構文」となる。

では、「間接関与構文」と「利益」義の発生とは何の関係があるのか。まず、話者が会話の中で物事を参与者に関与させようとする動機を考えておきたい。

池上(2012)が指摘するように、「話者は問題の事態の中の自らにとって関与性のある(常識的な言い方をすれば、意味のある)と判断される部分だけを言語化すればよい」。だが、我々が論じてきた間接関与構文はこの原則に違反し、話し手と関わらない独立した出来事を敢えて言語化する構文となっている。筆者は、このような構文的仕組みによってこそ、述語事象が参与者に一定の心理的な影響を及ぼすという推論が生まれると見る。推論される心理的な影響は決して受益に限らず、被害にもなり得る。⁽¹⁴⁾ 以下受益と被害の用例を示す。

受益

(30). ララはその場に座り込み、電話機を見つめながら、ベルよ鳴ってくれ、と祈り続けた。

(『星の輝き』シドニィ・シェルダン(著)／天馬龍行(訳))

(31). 反省のかけらもない声でふたりは笑った。美奈子の回復が遅れてくれてわたしのほうは助かった。

(『あしたの蜉蝣の旅』志水辰夫(著))

(30)

(32). 絶妙なタイミングで、宇佐見が仕事を終える。いや、本当だったら、もう少し早く終わってほしいところだったのだが。

(『眠る体温』麻生玲子(著))

(30)～(32)は、後続の「祈り続けた」、「助かった」、「～たい」から、述べられている事象は話し手側にとって好都合であることが分かる。

被害

(33). まぁネトウヨの大ボスが文章をまともに読めませんからね。子分たちに学があってくては困るのでしょう。支持してくれなくなりますもんね。

(twitter 投稿)

(34). 「これ以上、ドイツが変わるのはごめんだ」というのが理由。これ以上難民が増えてもらっては困る。これ以上外国人が街に住みついてもらっては困る。

(『通貨崩壊』藤井良広(著))

(33)～(34)は、後続の「困る」から、述べられている事象は話し手側にとって不都合であることが分かる。

問題1、2に対して、ここまでの結論をまとめる。

話し手側と非話し手側を厳密に区別する現代日本語は、話し手の視点から事態を捉え、描写する性格が強い。この特徴により、出来事からの心理的な影響は話し手側に容易に言語化されるが、非話し手側には言語化され難い。ここで話し手側へ「関与させよう」という意味合いを実現させたのは、まさに話し手に接近することを表現する求心的助動・補助動詞(テクレル、テモラウ一群)⁽¹⁵⁾である。また、本稿では、非意志的動詞授受構文の受影響義(受益に限らない)は、主に語用論的要因によって発生されたと判断し、動詞の原型的な意味は二次的なものであると考える。

4.3. 非意志的テモラウ構文制限について

問題3「同じ求心型用法であるにも関わらず、非意志的動詞のテモラウ用法が制限されている」はなぜ生じるのだろうか。この問いを考えるにあたって、本節ではテモラウ用例から観察された二つの傾向に注目して、非意志的テモラウ構文が制限される理由を論じる。

本研究のテモラウ用例分析から、すべての実例は(35)～(38)のように、願望

形「たい」や条件節「なくてはなりません」が代表的なパターンとなり、完了(実現)形用法が見当たらないとの事実が示される。

- (35). 時代劇専門チャンネルをCATVで見ているのですがよくあれだけ悪人が出てくるのかと感心しながらも終盤しっかり解決されるストーリーだけに現実にもそのようなしっかりした人が現われてもらいたいものです。

(Yahoo! ブログ)

- (36). ハンバーガーショップ、子供たちは喜ぶでしょうが。私は、もっと他のものが出来てもらいたい～

(Yahoo! ブログ)

- (37). さきほどまでの、穏やかな印象が、豹変している。「あなたがたの組織は、一刻も早く潰れてもらわなくてはなりませんわね」。

(『愛憎のメス』門田泰明(著))

- (38). フットボールチケットの売り方に対しては、正直、良い思いはしないし、消えてもらいたいと思う。すくなくとも、サポーターであれば、(特別な事情がない限り)定価で譲るものだとわたしは考えている。

(Yahoo! ブログ)

非意志的動詞のテモラウ用法は用例数が比較的に少ないだけでなく、アスペクト的にも抑制されることが分かる。また、非話し手側(行為者)の格表示に目を向けてみると、ほとんどの非意志的テモラウ構文は上記の(35)～(38)のように、非ニ格表示となっており、ニ格表示の用例は67例中6例にすぎない。さらに、ニ格表示の6例はすべて有情物名詞句であり、この結果は、堀口(1987)、山田(2004)などから指摘された「テモラウは無情物がニ格に来ない」という制限に合致した。以下にニ格表示の用例を示す。

- (39). 「うちやち、早いとこエンゾさんに治ってもらうて、また海に潜りにいきたいがよ」

(『桃色浄土』坂東眞砂子(著))

- (40). 彼はリボルバーを取り出した。「あんたには、消えてもらう」彼女は一歩あとずさった。

(『遺産』シドニィ・シェルダン(著)/木下望(訳))

- (41). だって、彼らには早く売れて貰いたい！ メジャーに行って貰いたいからね

(Yahoo! ブログ)

上述した2つの傾向(アスペクト制限、行為者格制限)の理由について、本稿はモラウ動詞の特殊性—「働きかけ」性によると考えている。

クレル動詞⁽¹⁶⁾と違って、モラウ動詞は話し手側を主語とし、働きかけも受影も表すと先行研究から指摘されている。以下のように、両者の語彙意味構造を簡略的に示す。

クレル動詞の語彙意味構造：

- i. 非話し手側が行為を行う ii. 話し手側が影響を受ける。

モラウ動詞の語彙意味構造：

- i. 話し手側が働きかける ii. 非話し手側が行為を行う iii. 話し手側が影響を受ける。

山田(2004: 121)によると、テモラウ受益文の働きかけのあり方は、事態に対して作用を及ぼす意図と実際の積極的作用という観点から、少なくとも、「依頼的」、「許容的」、「単純受影的」と仮称できる3種類が認められる。この3種類の違いについて、本稿では上記モラウ動詞の語彙意味構造での焦点の所在によって決まると考える。つまり、話し手側の働きかけに焦点を当てる場合は「依頼的」、非話し手側の行為に焦点を当てる場合は「許容的」、話し手側への影響に焦点を当てる場合は「単純受影的」テモラウ受益文とする。非意志的動詞テモラウ表現において、ニ格が抑制されたのは、焦点の所在に強く関わる。

行為者をニ格で表示するテモラウ文では、働きかけに焦点が当てられ、話し手側の意志(依頼など)が積極的に主張される。依頼の行為は常に、意志性のある対象を要求するため、有情物動作主体が喚起され、意志性のない無情物が一般的に(擬人用法以外)排除される。一方、非ニ格で表示されるテモラウ文の多くは話し手側の受影に重心が置かれる。話し手側の意志が捨象されたため、行為者が有情物であれ、無情物であれ、求心型の影響であれば、ほぼすべての出来事を言語化することができる⁽¹⁷⁾。

非意志的動詞テモラウ表現においてのアスペクト的制限(実現形が抑制される)も上記と同じ観点から説明できるだろう。以下、(42)～(43) = (35)～(36)の願望形用例と、(42)'～(43)'の実現形用例を比較されたい。

(42). 現実に、そのようなしっかりした人が現われてもらいたいものです。

(42)'. *現実に、そのようなしっかりした人が現われてもらったものです。

(43). ハンバーガーショップにもっと他のものが出来てもらいたい。

(43)'. *ハンバーガーショップにもっと他のものが出来てもらった。

願望形と完了形の場合、それぞれモラウ動詞意味構造(i. 話し手側が働きかける ii. 非話し手側が行為を行う iii. 話し手側が影響を受ける。)のどの部分に焦点を当てられるのかを確認しておこう。

願望形テモラウ(「たい」)

- i. 話し手側が働きかけたい ?
(可能ではあるが、使役の願望を表す必要がない。)
- ii. 非話し手側が行為を行いたい ×
(「たい」は基本的に話し手の願望を表す。)
- iii. 話し手側が影響を受けたい ○

完了形テモラウ(「た」)

- i. 話し手側が働きかけた ○
- ii. 非話し手側が行為を行った ○
- iii. 話し手側が影響を受けた ○

願望形テモラウの場合、焦点を当てられるところは基本的に話し手側の受影響のみである。純粋な求心的構造と解釈されるため、非意志的動詞への接続が可能である。一方、完了形テモラウ「た」の場合、焦点の所在は「話し手の働きかけ」「非話し手側の行為」「話し手側の影響」三つとも可能であるので、受影響でない解釈も存在する。故に、非意志的動詞への接続が抑制されると考えられる。

問題3に対して、ここまでの結論をまとめる。

非意志的テモラウ用例数が比較的に少ないのは、格表示やアスペクトなどの文法的制限が原因である。さらに追求すれば、モラウ動詞の語彙意味構造の特殊性(働き掛けと受影が併存する)に帰すると考えられる。

5. 終わりに

本稿では、授受動詞の非意志的動詞への接続に焦点を当てて、求心型授受構文と遠心型授受構文の違いを語用論的な観点(主に、日本語文脈構築の特徴)から考察を行った。まとめると、次のようなことが明らかになった。

- I 非意志的な動詞事象を授受構文化すると、主に求心性の違いによって、非対称(求心型>遠心型、テクレル>テモラウ)が生じることを実例調査によって検証した。
- II 求心型授受構文と遠心型授受構文の非対称性の背景について、本稿で

は、とりわけ、授受動詞の分化に注目して、テクレル・テモラウの「求心的」意味と現代日本語会話モード(視点の固定化、切り替え困難)との相互作用によって生じた現象と考える。また、非意志的動詞授受構文の受影響(受益に限らない)に関して、本稿は主に語用論的要因によって発生されたものと判断し、動詞の原型的な意味は二次の影響要素であると結論づけた。

- Ⅲ テモラウの非意志的動詞接続が抑制される(アスペクト制限、行為者格制限)原因はモラウの働き掛けと受影の併存性に帰せられると明らかにした。

以上、非意志的動詞授受構文の非対称性の要因を日本語文脈構築の特殊性から、分析した。非意志的動詞の授受動詞接続は、現象面でこれまで多く取り上げられておらず、主に構文論において論議が集中している。しかし、本稿の用例調査からも示唆されているように、発話の場面を考慮に入れないと、いくら動詞の特徴や格関係などから一般化しても、言語事実を十分に捉えることができない。非意志的動詞接続の特徴は、方向性意味を持つ他の助動詞・補助動詞からも観察され、現代日本語「求心性を心理的に運用する視点が存在する」という特徴と連動する現象であると考ええる。

【注】

- (1) 本動詞用法や敬語用法は本研究の考察から除外する。
- (2) 大江(1975)、久野(1978)、寺村(1982)、山田(2004)など。
- (3) 日本語の「与える」に相当する授与動詞。
- (4) 本稿で用いる用例は、断りがないものは作例である。「Yahoo! ブログ」は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から収集している。
- (5) 主に可能形、命令形、願望形などの有無によって内省判断をする。
- (6) サ変動詞や、「動詞連用形+デ」のパターンは対象外とする。
- (7) 高見・久野(2002:306)は仮定法を用いることによって、この種のを「変化する」[一恒常的状态]動詞とする。
 - a. *家の近くに湖があってくれて、毎日散歩を楽しんでいる。(恒常的状态)
 - b. 家の近くに湖があってくれたら、気持ち落ち着くだろうなあー。
- (8) 授受動詞には下線を付し、その他の注目する部分に破線を付した。
- (9) 澤田(2011)によれば、自己領域に属するのにか他者の領域に属するののかによって物事・事象を敏感に表現し分ける方向に発達してきている。
- (10) 柴谷(1997)は間接受け身の迷惑性を論じる際に、日本語の特殊性を次のように指摘した。「間接的な影響を蒙るという関連性だけで問題となっている意味統合が可能かどうかは、言語によって異なっていて、この点が日本語と朝鮮

語・中国語との間の迷惑受け身をめぐり上の重要な相違点になっている。これらの言語では近接性に裏付けされた関連性の度合が高くなければ、意味統合がしにくいのだと考えられ、近接性が弱くても何らかの影響を受けたという関連性だけで意味統合が可能な日本語との間に顕著な違いを見ることが出来る。」現代日本語が「近接性が弱くても何らかの影響を受けたという関連性だけで意味統合が可能」の原因は本稿で論じられたこの性質に関わると考えられる。

- (11) 実際に、「医者が増えてくれた」、や「脂肪が溶けてくれた」のような会話の参加者から独立した事象に関して、英語や中国のような分析的な言語ではこういった表現が好まれる。
- (12) 奥津(1983:78)。
- (13) 日本語や中国語などの言語では、「距離、所有関係の変化」を表す動詞から形式化されたもの(中国語の場合は「給、与、让、分、受…」、日本語の場合は「給う、たぶ、下さる、よこす、遣る、呉れる、貰う…」)が候補になりやすい。
- (14) ただ、本動詞の性質によって、受益に集中することは否認できない。
- (15) ちなみに、中国語などの言語や古代日本語は、話し手側と非話し手側の関係がより対等的であるため、関与関係の薄い対象を主観的に把握することができなく、現代日本語のような間接関与構文を産出しない。
- (16) 山田(1999)、(2004)。
- (17) モラウ動詞は荻野(2007)、山口(2017)から、「乞い求める」意味から「受け取る」意味へ、さらには「話し手側が受け取る」意味へと歴史的に変化していると指摘されている。本稿ではこのような変化を「焦点の移行」と称し、テモラウの非意志的動詞接続は、従来から存在していたものではなく、モラウ動詞の焦点の移行に伴って生じた後発的な現象であると考えられる。非意志的テモラウの成立：焦点の移行→単純受影可能→求心型→非意志的動詞接続可能。

【参考文献】

- 池上嘉彦(1975)『意味論』大修館書店
- 奥津敬一郎(1983)「何故受身か? : <視点>からのケース・スタディ」『国語学』第132集 : pp. 65-80.
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
- 荻野千砂子(2007)「授受動詞の視点の成立」『日本語の研究』3(3) : pp. 1-16.
- 影山太郎(1996)『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版
- 久野暉(1978)『談話の文法』大修館書店
- 高恩淑(2012)「動詞の意志性」を問う : 可能形式との関わりを中心に」『日本語文法』12(2) : pp. 111-127 日本語文法学会
- 高見健一・久野暉(2002)『日英語の自動詞構文 : 生成文法分析の批判と機能的分析』研究社
- 澤田淳(2011)「日本語のダイクシス表現と視点、主観性」『ひつじ意味論講座5 主観性と主体性』澤田治美(編)ひつじ書房
- 澤田淳(2014)「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化 : 他言語との比較対

- 照と合わせて」『言語研究』145：pp.27-60 日本言語学会
- 柴谷方良(1997)「「迷惑受身」の意味論」『日本語文法：体系と方法』川端善明・仁田義雄(編)ひつじ書房
- 寺村秀夫著(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 仁田義雄(1988)「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』17-5：pp.34-37 大修館書店
- 山口響史(2017)『受益・受害構文の歴史的研究』名古屋大学博士論文
- 山田敏弘(1999)「テモラウ受益文の働きかけ性をめぐって」『阪大日本語研究』11：pp.37-57 大阪大学
- 山田敏弘(2000)「日本語におけるベネファクティブの記述的研究(1)：ベネファクティブの視点の位置と方向性」『日本語学』19(13)：pp.94-103 明治書院
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ：「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』明治書院
- 由井紀久子(1996)「日本語動詞の意味の抽象化過程：イク・クル・ミルの意味分析を中心に」『大阪大学文学部紀要』第36巻：pp.1-29 大阪大学文学部(編)
- 由井紀久子(1997)『日本語動詞における意味の抽象化過程の研究：補助動詞用法を持つ動詞の意味分析』大阪大学博士論文

【用例検索】

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)BCCWJ-NT』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>
ツイート用例：<https://twitter.com/search-advanced>

(し ようひ 本学大学院博士課程後期)